

麴町で見つけた 東京のアメリカ

小学校6年生の時に東京都の住人になった。初めての東京、初めて見る物が沢山あった。市ヶ谷見附から一直線の坂を上り切ると五番町の通りに出る。右は四ツ谷方面、左は九段方面になるが、これを横切りさらに進むと右が六番町で左は四番町。左手の酒屋が、転校後最初に友達になったH君の家。さらに進むと、緩やかな下り坂になり、次に上り坂になる。上り坂の頂上が麴町4丁目の交差点。新宿から月島8丁目へ行く都電11番が走るメインストリートで、交差点には信号があった。交差点を横切って尚も進むと、道は永田町方面に向かってさらに真っ直ぐ進んでいたが、何故か私の行動範囲は赤坂プリンスホテルの前の諏訪坂までだった。

麴町4丁目を横切ってしばらく進み平河町に入ったあたりに、左側に建つ古風な厳めしい雰囲気のある4階建ての建物が気になった。入口には「MANPEI HOTEL」と書いてあって、路傍に建つ看板を見て「万平ホテル」という名の建物であることがわかった。建物の側面に鉄の外階段が付いていて、日本人の少年には物珍しい建物だった。MPの詰め所のようなBOXが建っていて、時々MPが立っていることもあった。

入口にはいつもBuickなどの大型乗用車(当時はこれらを外車と言った)が停まっていた、時にはボンネットの上に子どもが座ってガムを噛んでいることもあった。

建物の前にはバス停の標識が建っていて、「MANPEI HOTEL」と書いてあった。時々走ってくるバスの横腹には「US ARMY」と書いてあって、戦車のような色をした、怖そうな感じのバスだった。

バスの行先は英語で書いてあって、「WASHINGTON HEIGHTS」とか「GRANT HEIGHTS」と書いてあることが多かったが、朝晩には「SCHOOL BUS」と書いたバスも走っていた。昼間になるとアメリカ人の夫婦だか恋人だかわからないが二人連れや、子どもを連れた家族と思しき数人がバス停に立っていた。

この住人(宿泊者?)達は、近隣の日本人の子供達に愛想を振りまくわけでもなく、子供達も通行する日本人に微笑みを送るわけでもなかった。まるで異なる世界に住む集団同士が、見て見ぬ振りをしながら暮らしているような空気で、接点も交流も何もない感じだった。

異様な風景にも慣れて、何気なく通過できるようになったが、その内に時は流れ時代は移ろい、やがて戦車色のバスは走らなくなり、外人を見かけることもなくなった。

高校生になった私は、「ウェストサイドストーリー」という映画を見た。古ぼけた建物にぶら下がるように付いている鉄製の外階段でリチャード・ベイマーやナタリー・ウッドやジョージ・チャキリスが歌って踊る映画を見て、「MANPEI HOTEL」の佇まいを思い出した。

古く厳めしい格好をした建物だけがしばらく残っていたが、やがていつの間にか消え去り、どこにでもあるような普通の街になってしまった。

(右:インターネット上で見つけた東京万平ホテルの古い画像)



少しばかり大人になり、軽井沢にある万平ホテルの名を知り、格調高い洋風な高級ホテルであることも知った。そして麴町の「MANPEI HOTEL」が同系列の物であることも知った。

現在の万平ホテルのホームページに掲載されている「歴史」は以下の様になっていた。

1764年(明和元年)、佐藤万右衛門が軽井沢に旅籠「亀屋」を開業

1887年(明治20年)、9代目になる初代佐藤万平の一人娘よしに、婿(国三郎)を迎えて後継となる

1894年(明治27年)、欧米風のホテルスタイルにして「亀屋ホテル」に改称

1896年(明治29年)、「萬平ホテル」に改称(のちに万平ホテル)

1931年(昭和6年)、熱海に継いで東京万平ホテルを開業

1939年(昭和14年)、東京万平ホテルを閉鎖

1945年(昭和20年)、軽井沢万平ホテルは営業を停止。米軍に接収され、将校向け宿泊施設となる

(記述はないが、東京万平ホテルも同時に接收されたと思われる)

1952年(昭和27年)、軽井沢万平ホテルは米軍による接收が解除されて、通常営業を再開

私がMANPEI HOTELと初めて出会ったのは 1956 年(昭和31年)頃なので、各地にある米軍接收施設が段階的に返還されていた時期だったと思われる。

MANPEI HOTELの前に停まるバスの行先表示で見た地名・施設名をいくつか思い出した。

*ワシントンハイツ

正式名称は、「US Airforce Washington heights housing complex」、平たく言えば在日アメリカ空軍用ワシントンハイツ住宅団地。

広さは92万㎡。兵舎・住宅・学校・教会・商業施設・将校クラブなどがあつた。

この場所は江戸時代には大名や旗本の下屋敷があつた。明治維新後に民有地となって桑畑や茶畑ができたが、陸軍省が土地を買収して、1909年(明治42年)に陸軍の代々木練兵場等となった。

陸軍刑務所や監獄も併設されており、二・二六事件の時にはここで処刑も行われた。

1964年に日本に返還された後は、代々木公園・国立競技場・NHK放送センターなどになった。

*グラントハイツ

昔は、練馬の田柄・高松・土支田にまたがる広大な農地だった。

1942年に首都防衛を目的に成増飛行場建設が決まった。乱暴な土地買収が進められて、1943年(昭和18年)から駐留が始まり、飛行場は同年12月に完成。飛行場そのものの他に飛行部隊から整備・工場・警備・医務などの機能も備えたものが出来、神風特攻隊などが出撃したが、時既に遅し。

B29の再三の襲撃を受け、やがて終戦。

連合国に接收されグラントハイツと改称し、1947年に在日米空軍(US Airforce)の家族宿舎が建設された。(総面積は182万㎡)

1973年(昭和48年)に日本に返還され、光が丘団地などができた。長い歴史の中にあつた一切のものをかなぐり捨てて、華美な「光が丘」という地名に作り替えてしまったことを是とみるか非と見るか。

*ハーディー・バラックス

青山墓地の南東に隣接した都立青山公園の南端に「ハーディー・バラックス」という建物がある。終戦後、米軍に接收された施設の名残だが、「赤坂プレスセンター」、米軍の機関紙「Stars and Stripes」のほかヘリポート・軍隊系シンクタンクなどがあつた。

ハーディー・バラックスから北東に向かって東京ミッドタウンあたりまでの場所に、1889年(明治22年)に陸軍歩兵第3連隊ができた。また、現在のTBSのあたりには近衛歩兵連隊もでき、軍都東京の趣となった。1936年(昭和11年)の二・二六事件では、この連隊から900名余の兵や下士官が参加したと言われている。

近衛歩兵連隊の場所は、江戸時代には長州毛利家の下屋敷になっていた。米軍接收を経て返還後には、防衛庁の主要機能が配置された時期もある。

陸軍歩兵連隊の場所は米軍からの返還後、青山公園・国立新美術館・政策研究大学院大学などに置き換わり、軍都の色合いは消えてしまったが、ハーディー・バラックスの建物だけがまだ残っていて、しかも米軍施設として使われているらしい。

*GHQ

日比谷交差点の近くで、内濠を挟んで皇居に対面する場所にあつた。日劇地下で映画を見た後で父が案内してくれて、その存在を知った。

連合国軍最高司令部(General Headquarters)で、一般国民の間では進駐軍と言われていた。

1945年(昭和20年)8月にダグラス・マッカーサー元帥が着任して、二代目はマシュー・リッジウェイ中将。1952年(昭和27年)4月まで続いた。

GHQがあつた建物は、1938年(昭和13年)に竣工した第一生命の本社ビルだった。ここには警視庁があつたが、関東大震災で倒壊して跡地の民間払い下げに乗って第一生命が確保した。

皇居に面した正面の美観に気を配って、ギリシャ風の 10 本の柱を配した鉄骨石造の厳かな建物。
返還後、第一生命の手に戻った。

*極東軍事裁判法廷

市ヶ谷駅から外濠を渡って新宿区側に入ると、四ツ谷方面への道と新宿方面への道に分れる。
新宿方面への道をとると市ヶ谷本村町になる。右手の小山に広がるのが自衛隊市ヶ谷駐屯地。
三島由紀夫が占拠して自決した事件の現場である。

1874 年(明治 7 年)に陸軍士官学校がここに開校した。

1937 年に座間に移転した後は陸軍士官学校予科が残っていたが、1941 年(昭和 16 年)に陸軍省参謀本部(大本営)が三宅坂から移転してきた。

終戦後、市ヶ谷の施設は米軍に接收されてパーシング・ハイツとなった。のちに連合国による極東軍事裁判の法廷としても使われた。

私がこの場所の、この建物の存在を知った頃は軍事裁判から解放された施設が自衛隊の施設として生まれ変わる境目の時期だったのだろうか。1959 年(昭和 34 年)市ヶ谷分屯隊(練馬駐屯地からの分割移転)と陸海空幹部学校(小平から移転)ができ、正面入口と左内坂からの入口には鉄条網やバリケードがあって、衛兵が立っていた。

以上

<おまけ> 東京ではないが、郊外にはこんなものもあった。

*キャンプ・ドレイク

1932 年(昭和 7 年)東京ゴルフ倶楽部膝折ゴルフ場として開設。「膝折」は当時の地名)

倶楽部の名誉会長であった朝香宮鳩彦王に因んで地名(膝折村)とともに朝霞(朝霞町)に改称。

1935 年(昭和 10 年)に、一部領域に陸軍被服廠が置かれ、1940 年(昭和 15 年)に陸軍省に全面買収されてゴルフ場は閉鎖。のちに陸軍予科士官学校が市ヶ谷から移転。

終戦後は、アメリカ陸軍第 8 軍団などの施設となり、朝霞キャンプ(通称:キャンプドレイク)と名を変え、ノースキャンプとサウスキャンプとで構成される総面積 450 万㎡の施設となった。

のちに一部の機能が韓国へ移転したことなどによって部分返還され、自衛隊朝霞駐屯地との共同利用になった。その後も段階的に返還が進み、多数の住宅団地や公共機関・施設に生まれ変わり、理化学研究所や司法研修所なども設置された。理化学研究所の南東隣にある AFN 送信用アンテナが設置されているエリアのみが米軍施設として残っているらしい。

(AFN=American Forces Network 旧称は FEN=Far East Network)

*ジョンソン基地

1938 年(昭和 13 年)所沢陸軍飛行場から分離して陸軍航空士官学校分校が入間郡豊岡町に設立され、のちに航空士官学校として独立した。

1945 年(昭和 20 年)米軍に接收されて、陸軍航空軍の施設(ジョンソン基地:300 万㎡)となった。自衛隊発足と共に入間基地が誕生して日米共同利用となったが、1978 年に全面返還となった。

現在の名称は、航空自衛隊入間基地。

1938 年の陸軍航空士官学校設立に伴い、地元の磯野農園が将校向けの住宅を作った。

米軍ジョンソン基地となった後、朝鮮戦争の勃発による米軍の増強もあり要請をうけて米軍ハウスを建築し、最多時には約 800 棟あったようだ。

基地の全面返還後に取り壊され、一部は民間向け賃貸住宅として使われたが、老朽化もあり残っている物は少ないらしい。当初は磯野住宅と呼ばれた米国風の住宅と町並みが、2009 年にジョンソンタウンとして商標登録されたとのこと。